

ヒアリング記録シート（市政参加経験のない方）

市政参加の経験	なし（ゼミの先生の紹介で、ワークショップの運営側としての経験は有り）
ヒアリング日時	平成30年11月6日（火）14時～14時30分
ヒアリング実施者	<事務局> 山下比佐暢, 松岡みさき

<聞き取り内容>

市政とのつながり
普段生活していて、特別に意識することはない。
市政情報、どこでどのような広報なら大学生の目に留まるか
バス車内の広告や、大学食堂近辺の掲示板等の広報物は目に留まる。
「市政参加」と聞いて思うこと
普通に生活していて、言いたいことが全くないわけではないが、声をあげてもそれが市政に反映されるとは思わない。例えば、バスの問題について、乗客が多くて困ると思っていても、友人同士で「困ったね」と話して終わってしまう。「仕方ない」と思ってしまっ、「市に言ってなんとかしてもらおう」とはならない。
市政参加を進めるためのアイデア
市からの呼びかけの際には、日時、場所の他に、具体的に何をするのかといった内容が事前に分かれば参加しやすい。また、大学の先生から強く呼びかけられると参加するかもしれない。ただ、どちらも、「新しい知識が得られる」、「色んな人の意見が聞ける」、「珍しいゲストが来る」など、自分自身が興味のある内容でなければ参加しない。事前に、そうした「得られるもの」が分かれば、参加しようという意識は高まるかもしれない。例えば、「参加者は大学生限定、他大学の方と知り合えるチャンスですよ」という案内があれば、私は参加しないが、それに興味をもって参加する子はいるかもしれない。「ワークショップ」をします」だけだと、その内容がどんなものか分からないから参加しにくい。1回の講義だと知識が定着しないと思うが、大学の授業で市政参加手法について説明するのが一番多くの人に知ってもらえる機会になると思う。

<地域主催のワークショップでの経験>

ワークショップ参加のきっかけ
所属するゼミの教授から、地域の人主催のワークショップの運営手伝いの話があり、「都合があう時は参加しよう」、「できるだけ参加しよう」と思っていたので参加して手伝った。
ワークショップに参加してみた
参加者は高齢者が多いという印象を受けたが、参加者の話を聴くのは楽しかった。ワークショップの対象年齢が分かりにくい。「誰でも参加できます」と言うよりも、ある程度絞って「～～という方に参加して欲しい」と呼びかける方が、参加しやすいのではと感じた。
地域への関心は高まったか
手伝いに入った地域の名前が耳に入ると気にはなるが、「関心が高まった」とまでは言えない。「ワークショップ」自体は、授業で体験していることもあって、私は身近な感じはある。